

松山 智一

1976 年 岐阜県高山市に生まれる。現在はニューヨーク、ブルックリンを拠点に活動。

2000 年 上智大学経済学部卒業

2002 年 渡米

2004 年 Pratt Institute（ニューヨーク）コミュニケーション・デザイン専攻 卒業

主な個展

2025 年 *Liberation Back Home* (SCAD ミュージアム・オブ・アート／サバンナ、ジョージア州、米国)
Tomokazu Matsuyama: Morning Sun (エドワード・ホッパー・ハウス美術館／ニューヨーク、米国)
松山智一展 *FIRST LAST* (麻布台ヒルズ ギャラリー／東京、日本)
Almine Rech 個展 (Frieze Los Angeles／ロサンゼルス、米国)

2024 年 *Mythologiques, 第 60 回*ベニス・ビエンナーレ, *Hosted by the Contemporary Istanbul Foundation*
(Arsenale、ベニス、イタリア)

2023 年 *MATSUYAMA Tomokazu: Fictional Landscape* (上海宝龍美術館、上海、中国)
松山智一展：雪月花のとき (弘前れんが倉庫美術館／弘前、日本)
Episodes Far From Home (Almine Rech Gallery／ロンドン、英国)

2022 年 *Harmless Charm* (Sotheby's／香港)
The Best Part About Us (Kavi Gupta Gallery／シカゴ、米国)

2021 年 *Boom Bye Bye Pain* (KOTARO NUKAGA／東京、日本)
Accountable Nature (龍美術館／重慶、中国)

2020 年 *Accountable Nature* (龍美術館／上海、中国)

2018 年 *No Place Like Home* (Zidoun-Bossuyt Gallery／ルクセンブルク、ルクセンブルク)
Same Same, Different (LUMINE 0／東京、日本)

2017 年 *Baby It's Cold Outside* (Lesley Kehoe Galleries／メルボルン、オーストラリア)
Oh Magic Night (香港コンテポラリーアート財団、HOCA／香港)

2015 年 *Somewhere Here* (Zidoun-Bossuyt Gallery／ルクセンブルク、ルクセンブルク)
Made In 17 Hours (オーストラリア現代美術館／シドニー、オーストラリア)
Come with Me (Gallery Wendi Norris／サンフランシスコ、米国)

2014 年 *Sky Is The Limit* (ハーバーシティー／香港)
Outside Looking In (Lesley Kehoe Gallery／メルボルン、オーストラリア)

2013 年 *The Standard Rendez-vous* (Zidoun Bossuyt Gallery／ルクセンブルク、ルクセンブルク)
Palimpsest (ハーバード大学、ライシャワー研究所／ケンブリッジ、米国)

2012 年 *New Works by Tomokazu Matsuyama* (Mark Moore Gallery／ロサンゼルス、米国)
The Future Is Always Bright (Gallery Wendi Norris／サンフランシスコ、米国)

- 2011 年 *Thousand Regards* (アメリカン大学美術館カッツェン・アートセンター/ワシントン DC、米国)
East Weets Mest (Joshua Liner Gallery/ニューヨーク、米国)
- 2010 年 *In Case You're Lost* (Frey Norris Gallery/サンフランシスコ、米国)
- 2009 年 *Glancing at the Twin Peak* (Joshua Liner Gallery/ニューヨーク、米国)
- 2007 年 *Between the Polar* (Takuro Someya Contemporary Art/千葉、日本)

主なグループ展

- 2024 年 *Pop Forever, Tom Wesselmann & ...* (フォンダシオン・ルイ・ヴィトン、フランス)
Blossom: The Tenth Anniversary of the Long Museum (龍美術館/上海、中国)
クロスアート 4 ビロニングー新しい居場所と手にしたものー (岐阜県美術館/岐阜、日本)
Go For Kogei! (富山市岩瀬エリア/富山、日本)
- 2023 年 ニューホライズン 歴史から未来へ (アーツ前橋/前橋、日本)
Permanent Collection Exhibition (マイアミ・ペレス美術館/マイアミ、米国)
A Leisurely Stroll - The Tenth Anniversary of The Long Museum (龍美術館/上海、中国)
Sugoi! 200 Years of Japanese Art (カラマズー美術館/ミシガン、米国)
ながくとも四十に足らぬほどにて死なんこそめやすかるべけれ (Die Young, Stay Pretty) ,
Curated by Tomokazu Matsuyama + Carlos Rolon (KOTARO NUKAGA/東京、日本)
- 2022 年 オフィシャルコラテラルプロジェクト (第 17 回イスタンブール・ビエンナーレ/イスタンブール、トルコ)
- 2021 年 *Realms of Refuge* (Kavi Gupta Gallery/シカゴ、米国)
Home & Away: Selections From Common Practice (Miles McEnery Gallery/ニューヨーク、米国)
Nature Morte (The Hole/ニューヨーク、米国)
- 2020 年 *We Used To Gather* (Library Street Collective/デトロイト、米国)
- 2019 年 *FIXED CONTAINED, Curated by Tomokazu Matsuyama* (KOTARO NUKAGA/東京、日本)
- 2018 年 *Pardon My Language, Curated by Tomokazu Matsuyama*
(Zidoun-Bossuyt Gallery/ルクセンブルク、ルクセンブルク)
- 2017 年 *Re:define* (ダラス・コンテポラリー/テキサス、米国)
Forms and Effects: Ukiyo-e to Anime (Ramapo College of New Jersey/ニュージャージー、米国)
- 2013 年 *Mess in' With The Masters* (メサコンテンポラリーアートセンター/アリゾナ、米国)
Edo Pop: The Graphic Impact of Japanese Prints (ジャパン・ソサエティー/ニューヨーク、米国)
Changing World Through Art (Marianne Boesky Gallery/ニューヨーク、米国)
- 2012 年 *Re:Define* (ゴス・マイケル財団/テキサス、米国)
- 2011 年 *untitled* (チベットハウス美術館/ニューヨーク、米国)
Joy Ride (Spencer Brownstone Gallery/ニューヨーク、米国)
We Are All One (ニューヨーク工科大学/ニューヨーク、米国)
Changing World Through Art (Haunch of Venison Gallery/ニューヨーク、米国)
The Open Day Book Exhibition (Los Angeles Contemporary Exhibition/ロサンゼルス、米国)

- 2010 年 *Sugoi-POP! The Influence of Anime and Manga on Contemporary Art*
(ポーツマス美術館/ポーツマス、米国)
Summer Group Exhibition (Frey Norris Gallery/サンフランシスコ、米国)
Draw (メキシコ市博物館/メキシコシティ、メキシコ)
Changing the World Through Art (Haunch of Venison Gallery/ニューヨーク、米国)
- 2009 年 *Lost in Mutation: The Surreal in Contemporary Japanese Art*
(タフツ大学アイデックマン・アートセンター/マサチューセッツ、米国)
Sacred Monsters (タフツ大学アイデックマン・アートセンター/マサチューセッツ、米国)
UNFRAMED 2009 (15 Union Square/ニューヨーク、米国)
- 2008 年 *Winter Group Show* (Frey Norris Gallery/サンフランシスコ、米国)
眼差しと好奇心 (ミヅマアートギャラリー/東京、日本)
Night Watch (Takuro Someya Contemporary Art/千葉、日本)
Piece of Peace (パルコ・ギャラリー/東京、日本)
- 2007 年 *U Can't Touch This: The New Asian Art, Zone* (チェルシーアートセンター/ニューヨーク、米国)
Bunkamura アートショー/BAS2007 (Bunkamura ギャラリー/東京、日本)
Project To Surface (M127/ニューヨーク、米国)
Natural Drift (タクロウソメヤ・コンテンポラリーアート/千葉、日本)

コレクション

アルベルティーナ美術館 (オーストリア)
ロサンゼルス・カウンティ美術館 (LACMA) (米国)
サンフランシスコ・アジア美術館 (米国)
クリスタル・ブリッジーズ・アメリカン・アート美術館 (米国)
マイアミ現代美術館 (米国)
デ・ヤング美術館 (米国)
サンノゼ美術館 (米国)
マイアミ・ペレズ美術館 (米国)
ピーボディ・エセックス博物館 (米国)
カラマズー美術館 (米国)
ブルース・ミュージアム (米国)
AMMA 財団/美術館 (メキシコ)
弘前れんが倉庫美術館 (日本)
アーツ前橋 (日本)
横浜美術館 (日本)
岐阜県美術館 (日本)
滋賀県立美術館 (日本)
霧島アートの森美術館 (日本)
龍美術館 (中国)
宝龍美術館 (中国)
德基芸術館 (DEJI ART MUSEUM) (中国)
K11 アート財団 (香港)
スペース K ソウル美術館 (韓国)
The Fisher コレクション (米国)
The Dean コレクション (米国)
ラ・ネーブ財団サリナス (スペイン)

マイクロソフト・コレクション（米国）
トヨタ自動車（米国）
Bank of Sharjah コレクション（アラブ首長国連邦）
ドバイ首長国王室コレクション（アラブ首長国連邦）
ポイント・レオ・エステート（オーストラリア）
ナイキ・ジャパン（日本）
リーバイ・ストラウスジャパン（日本）
JR 東日本/LUMINE（日本）
中日ビルディング（日本）

パブリック・アート・プロジェクト

- 2025 TCL チャイニーズシアター（ロサンゼルス、米国）
LED ビルボードインスタレーション
- 2024 シカゴ公共図書館（シカゴ、米国）
ミューラルインスタレーション
- US OPEN テニス アーモリー・オフサイト（ニューヨーク、米国）
屋外彫刻インスタレーション
- 2023 バワリーミューラル（ニューヨーク、米国）
ミューラルインスタレーション
- 中日ビルディング（名古屋、日本）
屋内彫刻インスタレーション
- SUNY Upstate Medical Institute（ニューヨーク、米国）
ミューラルインスタレーション / RxArt
- 2022 フラットアイアン・パブリック・プラザ（ニューヨーク、米国）
屋外彫刻インスタレーション
- Galataport, Istanbul Biennial Istanbul（イスタンブール、トルコ）
オフィシャルコラテラルプロジェクト / 第 17 回イスタンブール・ビエンナーレ
屋外彫刻インスタレーション
- Yanköşe, Istanbul Biennial Istanbul（イスタンブール、トルコ）
オフィシャルコラテラルプロジェクト / 第 17 回イスタンブール・ビエンナーレ
屋外彫刻インスタレーション
- K11 Foundation, K11 MUSEA Hong Kong（香港）
LED ビルボードインスタレーション
- jing vision（東京、日本）
LED ビルボードインスタレーション / jing、原宿駅前

- 2021 TIPSTAR DOME CHIBA (千葉、日本)
彫刻とミューラルインスタレーション

Ivy ステーション (ロサンゼルス、米国)
屋外彫刻とミューラルインスタレーション/ カルバー・シティ, ロサンゼルス

Guo Hua Financial Center (重慶、中国)
LED ビルボードインスタレーション/ 龍美術館
- 2020 JR 新宿東口駅前広場 (東京、日本)
駅前広場監修、彫刻作品恒久設置/ JR 東日本、LUMINE

明治神宮 (東京、日本)
野外彫刻インスタレーション/ 一般社団法人アートパワーズジャパン
- 2019 North Canon Drive (ビバリーヒルズ、米国)
ミューラルインスタレーション/ ビバリーヒルズ市

パワリーミューラル (ニューヨーク、米国)
ミューラルインスタレーション/ Goldman Global Arts
- 2018 渋谷スクランブルスクエア (東京、日本)
LED ビルボードインスタレーション/ Peanuts Global Arts、ソニー、Culture Corps
- 2014 ハーバーシティ (香港)
屋外彫刻インスタレーション/ ハーバーシティ

レクチャー

- 2023 “カルチュラルアントレプレナーシップの時代” (京都大学/京都、日本)
- 2013 “アーティスト・プレゼンテーション” (ハーバード大学/ケンブリッジ、米国)
- 2012 “アーティスト・プレゼンテーション” (Katzen Arts Center, Museum for America University/ワシントン DC)
- 2011 “アーティスト・プレゼンテーション” (Artist Presentation, アジア・ソサエティ ミュージアム/ニューヨーク)
- 2007 “APMT” (BankART/ 横浜、日本)
- 2003 “アーティスト・プレゼンテーション” (Asian America Arts Centre/ニューヨーク)

作品集、展覧会図録

『MATSUYAMA TOMOKAZU FIRST LAST 松山智一作品集』 KOTARO NUKAGA (東京), 2025

『Tomokazu Matsuyama Mythologies』 VFMK (オーストリア), 2024

『松山智一展 雪月花のとき/MATSUYAMA Tomokazu: Fictional Landscape』 弘前れんが倉庫美術館 (弘前), 2024

『Boom Bye Bye Pain』 KOTARO NUKAGA (東京), 2023

『Die Young, Stay Pretty』 KOTARO NUKAGA (東京), 2023

『Tomokazu Matsuyama IN AND OUT』

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

美術出版社書籍編集部 (東京), 2021

『Fixed Contained』 KOTARO NUKAGA (東京), 2019

テキスト：秋元雄史

『No Place Like Home』

Zidoun-Bossuyt Gallery (ルクセンブルク), 2018

テキスト Hollis Goodall

『Pardon My Language』

Zidoun-Bossuyt Gallery (ルクセンブルク), 2018

テキスト：Peter Doroshenko

『Tomokazu Matsuyama』

HOCA Foundation (香港), 2017

テキスト Rory Padeken and Lauren Every-Wortman

『Tomokazu Matsuyama: A Floating World Redux』

Zidoun-Bossuyt Gallery (ルクセンブルク), 2016

テキスト Eric Shiner.

『Palimpsest』

Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University (ケンブリッジ), 2013

テキスト David L. Howell.

『Thousand Regards』 Panorama Publishing (東京), 2013

テキスト：Yayoi Shionoiri

『Edo Pop: The Graphic Impact of Japanese Prints』

Japan Society (ニューヨーク), 2013

『Further』 Gingko Press (バークレー), 2010、 pp.156-203

『In Case You're Lost』 Frey Noris Gallery (サンフランシスコ), 2010

テキスト Eric Shiner

『Tomokazu Matsuyama』 Panorama Publishing (東京), 2010

テキスト：Eric Shiner, Alexandra Chang, 窪田研二

『Found Modern Library』 Gingko Press (バークレー), 2007

テキスト：Alexandra Chang